

安息日 ～ 信仰の“安息”を得る

細井 茂徳

かなり昔に、「安息と休息とでは何が違うのでしょうか？」と聞かれたことがあります。その時は、「休息」は体を休めること、「安息」は心や魂といった内面に平安を得ることと言ったらよいでしょうか…と、そのように説明した記憶があります。では、「安息日とは何？」と問われたならば、どう答えたらよいのでしょうか。

聖書には「安息日」ということが度々出て来ます。そしてとても大事な日とされ、今日でもユダヤ人たちは大切に守ってきています。なぜなら、それは旧約聖書の律法、特に十戒の中(四番目)に「**安息日を覚えて、これを聖別しなさい**」(出エジプト 20:8)と定められているからです。その起源は、神が天地を創造された時、七日目に休まれた(創世記 2 章)ということ、同様に労働者や奴隷、家畜、寄留者にも休息を与えよ(申命記 5 章)とあるからでした。また、皆が休んでいる間に自分だけ抜け駆けしてより多くの利益を貪ることがないよう、厳しく取り締まる目的もあったようです。でも真の目的は、その日は神との契約のしるしとして、神が人々を聖別しておられることを示すと共に、人もこの日を神のために取り分けて、私たち人間が神に造られたことを喜ぶ日、救われたことを感謝する日、それら神の祝福を静かに想う日であるのです。

「安息(ヘブライ語でシャバット)」には、「止める、中断する」という意味もあり、そこで止めるのは労働——ユダヤ社会では、種蒔き、刈り入れ、売買、点火、性行為、食事の用意、病気のいやし、900m以上の歩行 etc. ——と細則が決められていました。指導者たちは、本来の目的を忘れて、方法を目的として、本末転倒してしまったのです。かえって人々の生活を縛ってしまったのです。だから主イエスは言われました。「**安息日は人のためにあるのであって、人が安息日のためにあるのではない**」(マルコ 2:27)と。働きを中断し、一旦そこから離れて、改めて自分を見つめ直し、神に生かされている恵みを受け取り直して祝福をいただく。まさに、安息日は私たちが自分らしさを再生する恵みの日であるのです。